

- 1. 人権が尊重され、誰(だれ)もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
- 2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
- 3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
- 4. 明日の彦根市を担う人を育(はくく)むまちづくり
- 5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり



私は、変わってしまったのは、むしろ大人の方ではないかと思えます。私が子どもだったころと比べて、私たちが取り巻く社会は大きく変化しました。モノがどんどん豊かになり、また社会は複雑になりました。

子どもたちが変わっていないわけはありませんが、子どもたちを見る大人たちも、社

社会の変化と大人

問関係を築くのがへたになった。」と見えるようです。彦子連の行事に参加する子どもたちを見ていても、そのように感じることもあります。だからといって、子どもたちが変わってしまったのかといえば、私はそうではないと考えています。子どもたちは、いつでも楽しみを求める心を持っています。これは、今の子どもたちもまったく同じです。

例えば、現在はたくさんの子どものテレビゲームを楽しんでいます。それは、テレビゲームが子どもにとって楽しい遊びだからです。テレビゲームよりも楽しい遊びが見つければ、子どもはそちらに熱中します。逆に20年前の子どもにテレビゲームを見せれば、やはり夢中になって遊んだでしょう。

彦子連では、8月7日から1泊2日、富士登山を計画しています。もしかすると、なかには山頂まで登れない子どももいるかもしれません。しかし、山頂まで登ることだけがゴールではありません。仮に登れなくても、そこから何かを学ぶことが大切なのです。

今の子どもたちも、昔の子どもたちと同じように、「自由で独創的に楽しむ力」を持っています。大人の役割は、子どもに関心を持ち、子どもと向き合っていて、どの子どもも持っている、その力を発揮する手伝いをするのだと思います。

会の変化に引きずられるように変わってしまったことを忘れてはいけな

今の子どもたちに必要なもの

モノが豊かになったことで、昔の子どもたちが持っていた、今の子どもに失われてしまったものがあります。自然とのふれあいや、ほかの世代の人と接する機会が、昔と比べてとても少なくなっているのではないのでしょうか。

子どもは体験することから学びます。うまくいくことばかりではなく、ときには失敗することもあるかもしません。けれども、子どもにとってはそのことも素晴らしい経験だと考えています。

健やかな青少年育成のために

子どもたちを支える地域の取り組み

21世紀の彦根市を担う青少年が、心豊かに健やかに成長することは、すべての市民の願いです。

しかし、少年の非行をはじめ、青少年をめぐるさまざまな問題は、広範囲にわたって、青少年の間に浸透しつつあります。このような青少年の問題は、彼らを取り巻く社会全体の問題でもあり、家庭や学校、行政など地域全体で取り組んでいかななくてはならない問題です。

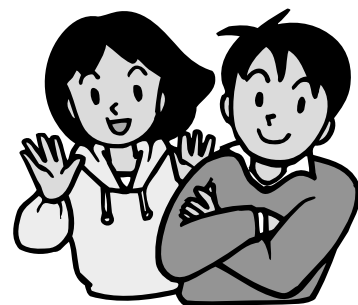
彦根市では、市長、市議会議員、学識経験者、関係行政機関などで組織する「彦根市青少年問題協議会」で、青少年の育成や指導などに関して調査、審議しています。

また、「彦根市青少年育成市民会議」や「学(地)区青少年育成協議会」では、あ

いさつ運動や、「子ども110番の家」の設置、毎月第3日曜日の「家族ふれあいサ

ンデー」の推進など、青少年の健全育成の取り組みを各地域で進めています。

今回は、彦根市の青少年育成の現状と、地域における取り組みについて、日ごろ子どもたちと接する機会が多い皆さんにお話を聞きました。



子どもも会活動を通じて見る現在の子ども、現在の社会

彦根市子ども会指導者連合会指導部 西川 徹さん



少年リーダーの養成

彦根市子ども会指導者連合会(以下、「彦子連」)は、主に各小学校区ごとの子ども会の取りまとめや調整をする組織です。また、「彦子連」は、彦根のリーダーとなる子どもたちを研修することもしています。この「少年リーダー養成事業」は、市内の小学生から高校生までを対象に行っていますが、今年も小学生から中学生までの約60人が参加しています。

リーダーの研修という、何かすごいことをするように感じるかもしれませんが、実際に取り組んでいる行事はとても楽しいものです。平成15年度には、8月に福井県の九頭竜湖で2泊3日のキャンプをしました。食事の準備では、小麦粉をこね

るところからパンをつくったり、鶏の姿が残ったままの状態から鶏肉を調理したりしました。どちらも普段は食べやすい状態でスーパーなどで売っているものなので、子どもたちにとっては新鮮な体験だったと思います。

また9月には、1泊2日で自転車によるびわ湖一周をしました。厳しい残暑のなかで、最初は元気な子どもたちも、時間が経つにつれて疲労がたまり、自転車をこぐ足も遅くなっていきましたが、最後までがんばり続けることができました。

これらの行事は、子どもたちにとって精神的にも肉体的にも負担が大きく、楽しいことばかりとはいえません。しかし、こうした経験を通して、自分以外の人とのかわり合いを実感し、自信を持って自分らしさを発揮し始めるのです。

昔の子どもと、今の子ども

昔と比べて今の子どもは変わりました。」という声を聞くことがあります。今の大人にとって、今の子どもたちは「外で遊ばなくなった。」人

悩んだとき、困ったときにお電話ください
青少年に関する相談窓口

市少年センター (市民会館内)

☎24-9140 (FAX共用)

少年の不良行為(家出、不良交友など)で悩んでいる家庭や学校、職場などを対象に活動をします。相談を通じてともに解決の方向を探り、適当な助言と指導を行って、少年が自らの力で非行を乗り越えるように支援します。

【主な相談の内容】

家出・怠学・怠業・金銭持ちだし・不良交友・性に関する問題行動などの相談のほか、家庭や学校、職場、男女交際などにおける、人間関係に関する相談に応じています。



「悩みの相談」

子ども・青少年に関する悩みを聴きます

☎23-7867

「悩みの相談」電話は、悩みを抱える青少年や、我が子・孫のことで悩んでいる保護者のための相談電話です。

【主な相談の内容】

学校や幼稚園での生活について、友達関係のこと、体の発達や性のこと、就職や進学に関すること、親子など家族関係に関すること など



地域ぐるみで
青少年育成を進めよう

彦根市青少年指導員

三輪 勇さん

若葉小学校区では、毎週金曜日の夜、地域の大人約15人で、ほかの学区と共同して、学校、保育園、公園や駅前などを巡回しています。

この巡回は、地域の防犯と、夜遅くに外出している青少年への指導を目的に、今から約16年前に始まりました。当初は防犯自治会や青少年育成協議会など、参加するのは一部の団体でしたが、現在では、自治会やPTAを含めた地域全体で取り組んでいます。夏休みなどは毎晩巡回をしています。

巡回していると、夜遅い時間に10人程度が集まっている中学生ぐらいの子どもたちに出会つので、すぐに家に帰るように指導します。なかには、何度話しても帰らないグループもあり、ときには警察に協力をお願いすることもあります。

しかし、そうした場合でも、最後には、私たちの手で子どもたちを家に送り届けるようにしています。地域の子どもたちのことは、同じ地域に住む大人が責任を持たなくてはならないと考えているからです。子どもたちが、夜遅くに駅前など



で集まり、話をしていることは決してよいことではありません。しかし、実際に子どもたちと話をしてみると、彼らがそうしてしまう理由の一端が見えてきます。

彼らの多くが家に居場所がない「家では話すことがない（話し相手がない）」と言います。また女子からは両親、特に父親に対する、「強さが感じられない」といった不満がよく聞かれます。

彼らとの会話から伝わってくるのは、家族関係の希薄さです。仕事などに追われる毎日の暮らしの中で、私たち大人は、自分の子どもと向き合つて話をするのを忘れていないでしょうか。また、子どもたちが間違つたことをしたときには、しっかりと注意し、何が間違つていたのか、ちゃんと説明できているでしょうか。われわれ大人は、子どもたちとの接し方について、考え直さなくてはならないと思います。

今年度から、若葉小学校区では、これまで大人がやってきた地域の行事などの活動に、子どもたちにも参加してもらっています。これからは地域の青少年の育成を、大人と子どもとが協力しあつて進めていきたいと思ひます。

アドベンチャーキャンプを体験しよう

佐和山学区子ども会指導者連合会

種田 芳則さん

私たち佐和山小学校区の子ども会では、毎年夏休みに、地域の小学5・6年生を対象にして、2泊3日のアドベンチャーキャンプを開催します。

キャンプはまず火打ち石を使って火を起こすところから始まりです。火がついたら、次はトイレの設置とテント張りです。トイレといても穴を掘つて、その上に板を乗せるだけ、テントも大きなビニールのシートで屋根を作るだけなのでいたって簡単なものです。このテントの下に敷いた板の上で子どもたちは寝ます。食事の準備も子どもたちが主役です。「ご飯は飯ごうや竹を使って炊きます。また、竹を使って食器や箸も作ります。

私たち大人はアドバイスはしますが、火の管理など危険なものではない限りは、あまり手を出さなないようにしています。

電気も水道もない、日常生活からかけ離れた環境で、初めて参加する子どものなかにはホームシックになる子どももいます。しかし、

ほとんどの子どもたちは大人やほかの参加者と交流するうちに、火打ち石の使い方や、食事の準備の仕方を学び、遊びなどの楽しみも自分たちで見つけていきます。毎年約30人の子どもが参加し、今年で16回目となるこのキャンプには、小学生だけでなく、中学生や高校生も参加します。小学生時代にこのキャンプを体験した彼らは、現在では小学生たちのよきリーダー役として欠くことのできない存在です。

最近の子どもたちを見てみると、恵まれすぎていてかわいそうなのが、社会の豊かさ、子どもたちから、いろいろなことを経験する場を奪つていってしまうと感じます。佐和山小学校区では、これからアドベンチャーキャンプを通じて、地域の子どもがたくさんのことを体験する場を大事にし、子どもたちの自主性、創造力を育てていきたいと思ひます。

紹介します
地域の青少年育成活動

青少年の健全育成の取り組みは、行政だけの役割ではありません。市内では、子ども会など、たくさんの方が、青少年育成のための活動を行っています。ここではそういった取り組みのなかから、2つの取り組みを紹介いたします。

高齢者と子どもとのふれあい活動

稲里老人クラブ

堀 隆二さん

稲里町では、「子どもとのふれあい活動」といって、毎年夏休みに、地域の子どもと高齢者との交流をする行事があります。

毎年いろいろな取り組みをしています。平成15年度は、山崎山城跡について、学習と清掃活動を行いました。山崎山城跡は地域の文化遺産であり、私たちが大人も詳しいこと

は知りません。そこで、子どもたちといっしょに地域の歴史を勉強することにしました。昨年の7月に開催した活動には小学生33人と、老人クラブの10人が参加しました。

始めに、町民会館で、山崎山城跡について資料を使って説明し、それから山崎山城跡に整備された史跡公園を見学しました。



とところどころに残る石垣の跡や、山の上から見える、安土城跡、佐和山城跡に、高齢者も子どもたちもともに、かつてここに城郭があつたことを実感できました。

見学した後は、全員で史跡公園の清掃をして草刈りやごみ拾いをしました。

このふれあい活動は20年以上も続いています。今では、学校への行き帰りのあいさつや、ちょっとした声かけなど、高齢者と子どもたちが、お互いに顔見知りになり、身近な存在となっているように感じます。

地域の高齢者と子どもたちがふれあい、交流を深める場として、稲里町ではこれからもふれあい活動を続けていきます。

紙上談話室 22

青少年健全育成にお力添えを

彦根市長 中山 一

初旬に立秋を迎えるとはいえず、この月いっぱいには盛夏の感で、夜は寝苦しい熱帯夜が続きます。しかし、どこからか聞こえる虫の音や木の葉を渡る風のかすかな音に、忍び寄る秋の気配をふと感じる事があります。

さて、今日の青少年をめぐるさまざまな問題状況は、たいへん憂慮すべき状況であり、少年非行の粗暴化、広域化、低年齢化といった現象となつて現れてきています。これらの状況の背景に、大人社会の生き方がそのまま青少年問題につながっているのではないかと思います。

わが国経済の構造的変化によつて、農業社会が工業社会に変わり、人口の都市部への集中や核家族化、少子化は、成長の基盤になる家庭や地域のつながりを希薄化しました。

次に、大人の価値観が激変したことです。営利主義が当然のように横行し、他者理解に乏しく共生意識の弱い見方や考え方によつて、自分さえよかつたらよいという自己中心の言動が急増しました。

このように、青少年を取り巻

く状況は厳しいなかにあります。が、青少年を育成するうえで、私の考えていることは、次の二点です。

一つ目は、青少年を「自己実現を図る主体」と捉えることです。ややもすると、非行防止や保護、矯正、問題行動への対応という「青少年対策」にウエイトを置きがちですが、自立的自己の確立、自己実現への支援を重視したいと考えます。

二つ目には、青少年を「失敗しても立ち直りが可能」であると捉えることです。青少年が大人になる準備期間のなかで、多様な見方や考え方を習得する場や機会を保障していくと、さまざまな場面で失敗や挫折感を味わうものです。青少年が、「将来に向かつて、試行錯誤の過程を経つつ、一人前の大人へと成長していくこと」を支援するといふ長い時間軸を持った育成を重視したいと考えています。

今後とも関係機関や団体、地域が連携しながら、安心して過ごせるまち創りにお力添えをよろしくお願いいたします。